
 研究会だより

**第11回静岡実験動物研究会研究発表
会に出席して**

6月24日、静岡実験動物研究会のお招きで小生が第11回研究発表会に出席した。会場は静岡薬科大学講堂で約80名の参加者であった。演題は次の通りである。

- 1) 生殖試験における入墨による新生仔ラットの個体識別について(生物科学技術研究所・松井正樹ほか3名)
- 2) ラットの体重測定法の基礎的検討 1.天秤上皿の形状変更による測定精度の向上について(生物科学技術研究所, 重村隆ほか3名)
- 3) イヌの非観血的血圧測定手技に関する検討(三共株式会社安全性研究所・村松勉ほか4名)
- 4) 妊娠ウサギに発生したパスツレラ症の病理組織像(生物科学技術研究所・神谷日出留ほか3名)
- 5) B₆C₆F₁マウスの肺腫瘍(三共株式会社安全性研究所・高岡雅哉ほか2名)
- 6) 「闘争」によるマウスの血液性状の変化(静岡実験動物協同組合・西川哲ほか2名)
- 7) トリグリセライド定量における **glycerol dehydrogenase** 法と **glycerophosphate oxidase** 法の比較(生物科学技術研究所・玉越千恵乃ほか2名)
- 8) 腎毒性試験における尿中酵素測定の意義(東洋醸造安全性研究所・白岩和己ほか5名)
- 9) ビーグルの血液凝固系におけるプロトロンビン時間延長例(三共株式会社安全性研究所・山下和男ほか2名)
- 10) 自然発生のキメラマウス(国立遺伝学研究所・土川清)
- 11) **KYA**系統マウスにみられる第3臼歯の欠如(国立遺伝学研究所・原田和正ほか2名)

自由討論ののち懇親会があり、御招待に会を代表して謝辞を申し上げた。

(永井理事)

**第6回静岡実験動物研究討論会に出
席して**

7月初旬頃、猪会長より、静岡実験動物研究会への出席依頼方のお電話があり、永井理事と三人で一緒に出かけることになった。

7月20日、浜松歯科大学の研究会会場へと向った。13時30分より、土川静岡実験動物研究会長から開会の御挨拶があり、研究会が始まった。演者は7人でまず、最初は、三共の柵橋先生から「疾患モデル研究の概要」について、特に難病疾患モデルとして、脳神経系のモデルが約60%、免疫症が34%、その他は代謝性のものであり、疾患モデル動物の作成方法として近交系、**mutant**、遺伝子の導入等があるが継代や生産が困難であり、特性チェックの必要性、特性永久保存等の問題点が残ることを指摘された。

第2の演者は、浜松医大の西村先生で、「疾患モデル動物の育種操作について、糖尿病や不妊症の疾患モデルについて詳述され、食事療法や運動療法のほか、人工授精、卵巣移植、試験管内授精や交配前のヘテロの見出し方等が提案された。

第3～5の演者は、「疾患モデルの有用性の開発とその利用、供給の具体例についてのテーマで、まず、阪大の北村先生が「肥満細胞欠損マウスの有用性」と題して、肥満細胞欠損動物が突然変異にて出現、その細胞は、結合織にあり、顆粒が多く、ヒスタミンやヘパリンを含む。**Mast cell**は、骨髄より末梢血に多く、ある種の寄生虫排除にもある程度役立つ等の特徴を述べられた。

第4の演者は、浜松医大の長谷川先生で、「肥満細胞欠損マウスの利用」と題して、**Central Nervous System**における**Major Neuro Transmitters**と**Peripheral Endocrine System**における**Major Bionergic Amines**について詳述され、気管の基底細胞にて**Serotonin (5HT)**産生細胞により、血行遮断作用があり、腸管には、**Endocrine**細胞と**Mast cell**が同居し、胃には、皮膚の10倍以上もの**Mast cell**が多く存在すること等が述べられた。

第5の演者は、静岡協の浅井先生で、「肥満細胞欠損マウスの供給」と題して、**WB**と**C₅₇BL**と